

東北大学整形外科専門研修プログラム

Department of Orthopaedic Surgery, Tohoku University Hospital

2018版



内 容

1. 専門研修プログラムについて
2. 東北大専門医研修の特徴
3. 専門研修の目標
4. 研修方法
5. 専門研修の評価について
6. 研修プログラムの施設群について
7. 専攻医受入数
8. 地域医療・地域連携への対応
9. サブスペシャリティ領域との連続性
10. 研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件
11. 専門研修プログラムを支える体制
12. 専門研修実績記録システム、マニュアル等について
13. 専門研修プログラムの評価と改善
14. 専攻医の採用と修了
15. 関連病院紹介

豊富な症例数と
充実のプログラム
後期研修は**東北大学**

 **東北大学病院 整形外科**

〒980-8574 仙台市青葉区星稜町1-1

TEL 022-717-7245 / FAX 022-717-7248

<http://http://www.ortho.med.tohoku.ac.jp//>



1. 東北大学整形外科専門研修プログラムについて

東北大学整形外科は、東北地方を代表する多数の地域中核病院を連携施設にもっています。したがって、本研修プログラムでは、臨床の第一線で豊富な診療経験（外来入院診療、多数の執刀を含めた手術経験）が得られるという大きな利点があります。基幹病院である東北大学病院においては専門性の高い医療を、また連携施設においては早期から多数の臨床経験を蓄積できます。整形外科専門医に求められる下記の能力を効率良く獲得することが可能です。さらに、本プログラムを通して、臨床・研究両面において、専門家としての素地を育むことができます。

整形外科専門医の理念

質の高い医療を提供するため、専門医制度によって医師として必要な臨床能力および整形外科疾患全般に関して基本的・応用的・実践能力を備えた医師が育成され、国民の運動器の健全な発育と健康維持に貢献すること。



整形外科専門医の使命

- ・あらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を備え、進歩する医学の新しい知識と技術の修得に日々邁進し、運動器に関わる疾患の病態を正しく把握し、高い診療実践能力を有すること。
- ・生活習慣や災害、スポーツ活動によって発生する運動器疾患と障害の発生予防と診療に関する能力を備え、社会が求める最新の医療を提供し、国民の運動器の健全な発育と健康維持に貢献すること。
- ・運動器疾患全般に関して、早期診断、保存的および手術的治療ならびにリハビリテーション治療などを実行できる能力を備え、運動器疾患に関する良質かつ安全で心のこもった医療を提供すること。

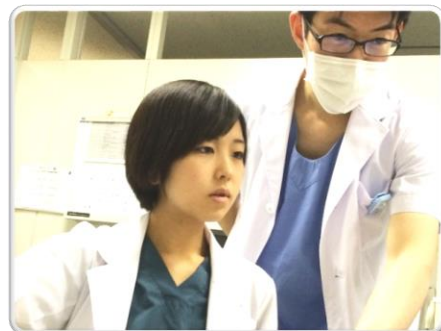
2. 東北大学整形外科における専門医研修の特徴

豊富な執刀数と専門知識獲得のサポート

東北大学整形外科の研修プログラムでは、基幹病院と地域医療病院の適切な組み合わせにより関節外科、脊椎外科、外傷、腫瘍、小児などの専門性領域をまんべんなく経験し、指導を受けることが可能です。外傷の治療は、地域の中核病院で多数の症例の手術執刀を含めた治療経験が可能です。当科の井樋栄二教授は日本を代表する肩関節のスペシャリストであり、肩関節外科をはじめとする専門的な関節外科はもちろん脊椎外科や、腫瘍や小児整形外科も東北大学病院を中心にした基幹病院で経験し、指導を受けることが可能です。この豊富な経験により整形外科専門医資格の取得、並びに専門医取得後の専門領域の専攻においてもアドバンテージが得られます。東北大学の研修プログラムでは、はじめの3年間を連携病院で研修を行い、最後の1年間は東北大学病院と仙台市内の連携病院で研修を行い、必要な研修内容を総括し、専門医試験にも有用なブラッシュアップセミナーを開催しています。さらに、東北大学は大学院大学であり、研究機関としての役割も果たしておりますので、研修後に大学院に進学して基礎研究あるいは臨床研究のテーマに取り組んで、博士号の取得が可能です。

研修終了後のステップアップ

研修プログラムの終了後の進路としては、大学院に進学するコースと、直接専門領域の研修に進むコースに分かれます。大学院に進学する場合には、専門医研修の終了後に大学院に入学することになります。大学院の在籍中に希望する専門領域の診療グループに所属して、診療のトレーニングを受けることも可能ですし、大学院修了後に専門領域の診療グループでトレーニングを開始することも可能です。専門領域の研修に直接進む場合には、東北大学病院で興味のある診療グループにスタッフとして所属する、あるいは仙台市内や地域のスペシャリストを配置する基幹病院に赴任して専門性の高い医療を指導受けながら研修していくことが可能です。また、本プログラムの途中からの大学院進学も可能です。



① 東北大学病院整形外科

東北大学整形外科は1942年に開講した歴史ある教室です。2006年からは第6代教授の井樋栄二先生が教室を主宰しています。東北大学病院の診療グループは、井樋教授の専門である肩関節外科をはじめ、膝関節、股関節、関節リウマチ・骨代謝、脊椎外科、骨軟部腫瘍に大別されます。大学院大学としては整形外科寄付講座を有しており、研究にも力を入れております。東北大学病院での研修ではそれぞれの診療グループに所属して研修することにより、専門性の高い医療の経験、トレーニングを受けることが可能となると同時に、臨床研究のリサーチクエストに適切に取り組むための臨床研究の進め方のメソッドも習得することが可能となります。

② 専門研修連携施設

東北大学専門医研修プログラムでは、連携病院として年間2000件以上の手術が1施設、1000件以上の手術を行う病院が3施設、500件以上の手術を行う施設が13施設あり、さらに専攻医を含めた医師一人あたりの年間手術執刀件数が100～200件であり、短期間で非常に豊富な執刀経験を得ることが可能です。提携病院は東北各地にあり、秋田県は大曲厚生医療センター、岩手県は岩手県立中央病院、奥州市総合水沢病院、山形県は山形市立病院済生館、東北中央病院、宮城県は気仙沼市立病院、大崎市民病院、石巻赤十字病院、栗原中央病院、登米市民病院、公立黒川病院、仙台整形外科病院、JCHO仙台病院、東北労災病院、仙台医療センター、東北公済病院、仙台赤十字病院、仙台市立病院、仙台西多賀病院、みやぎ県南中核病院、宮城県立がんセンター、松田病院、福島県は竹田総合病院、磐城共立病院、茨城県は水戸医療センターなどがあります。連携病院の多くは地域の医療圏を担う中核病院であり、多様な専門性を有する指導医を配置し、外傷から変性疾患まで幅広く対応しています。仙台市内の高度救急医療は連携病院である仙台医療センター、仙台市立病院、および東北大学病院が担当しています。また、東北労災病院、仙台赤十字病院、仙台整形外科病院、仙台西多賀病院、JCHO仙台病院、東北公済病院では、それぞれに疾患・部位に特化した専門性の高い研修を行うことが可能です。そのほかにも連携病院には小児整形に特化した宮城県立こども病院があり、セミナーなどを通し、充実した小児整形研修も受けることができます。また宮城県や岩手県の奨学金返済に対応した研修病院のコースや、仙台市内型の研修病院コースも対応可能です。ですのでご相談下さい。

表1. 専門研修基幹施設と連携施設で研修可能な専門領域

基幹病院	研修担当分野
大曲厚生医療センター	1,2,3,4,6,7,9,10
岩手県立中央病院	2,3,4,6,7,9
奥州市総合水沢病院	1,3,10
岩手県立磐井病院	7,9,10
公立学校共済組合東北中央病院	1,2,3,4,8,9,10
山形市立病院済生館	2,6,10
気仙沼市立病院	2,3,4,6,7,10
登米市立登米市民病院	4,9,10
栗原市立栗原中央病院	1,3,9
大崎市民病院	1,2,3,4,5,6,7,9,10
公立黒川病院	2,4,10
石巻赤十字病院	1,3,4,7,9,10
特定医療法人白嶺会 仙台整形外科病院	1,3,4,6
◎ 東北大学病院	1,2,3,4,5,6,7,8,9,10
東北医科薬科大学病院	1,2,3,4,5,7,9,10
地域医療機能推進機構 仙台病院	1,2,3,4,6,9
独立行政法人 労働者健康福祉機構 東北労災病院	1,2,3,4,5,6,7,9,10
独立行政法人国立病院機構 仙台医療センター	1,4,7
東北公済病院	3,4,5,6,8,9
仙台赤十字病院	2,3,4,6,7,8,9,10
宮城県立こども病院	3,4,7,9,10
宮城県立がんセンター	1,8,9
仙台市立病院	2, 3, 4, 5, 6, 7, 9, 10
仙台西多賀病院	1,2,3,4,5,7,9,10
松田病院	1,9,10
みやぎ県南中核病院	1,3,10
竹田総合病院	1,2,3,4,6,7,9,10
いわき市立総合磐城共立病院	1,2,3,4,5,6,7,9,10
水戸医療センター	1,2,3,4,5,6,9,10

③ 研修コースの具体例

東北大学研修プログラムでは様々なニーズに対応した研修コースを御用意しております。研修コースはオールラウンドな研修コースはもちろん、関節疾患研修コース、脊椎疾患研修コースなど特徴をつけたコースも対応可能です。いずれのコースにおいても専門医取得に必要な単位を全て取得することができます。また、転勤に伴う引っ越しには転出先の病院から引っ越しの補助金が支給されます（東北大学病院除く）。いずれのプログラムにおいても4年目は東北大学病院と仙台市内の病院で研修し、東北大学主催のブラッシュアップセミナー等を通し、専門医取得への準備をすることができます。

表2. 研修モデルコース

T1	大曲	大崎	仙台医療	大学
T2	気仙沼	東北労災	大崎	大学
T3	竹田	磐城共立	石巻	大学
T4	仙台医療	大曲	竹田	大学
T5	仙台市立	仙台医療	大崎	大学
T6	大崎	石巻	大曲	大学
T7	石巻	水沢	済生館	大学
T8	仙台市立	東北労災	仙台整形	大学
T9	磐城共立	竹田	仙台市立	大学
T10	石巻	竹田	磐城共立	大学
T11	済生館	宮城こども	西多賀	大学
T12	磐城共立	仙台市立	東北公済	大学

**上記の他、各自の希望に応じたコース設定が可能！
モデルコース内の病院の変更も可能！**

3. 東北大学整形外科専門研修の目標

① 専門研修後の成果

整形外科研修プログラムを修了した整形外科専門医には、あらゆる整形外科疾患に対して適切な初期対応（診断と治療、必要であれば専門医への紹介）を行う能力が必要とされます。また、専門領域が細分化した今日の状況を踏まえて、自分の専門分野を選択し、より詳細な知識を身に着けることも必要とされます。東北大学整形外科研修プログラムでは、幅広い専門分野を持った連携病院をローテーションし、第一線で活躍する先輩から学ぶことで、幅広い疾患の診断と治療を身に着けるとともに、将来の専門領域を身に着ける第一歩とします。

② 到達目標 (修得すべき知識・技能・態度など)

1) 専門知識と職業倫理

専攻医は、整形外科研修カリキュラムに沿って研修し、整形外科専門医として必要な、運動器に関する科学的知識と社会的倫理観を身につけます。常に進歩する医学の新しい知識を修得できるように、継続的な修練を行います。専門知識習得の年次毎の到達目標を表3に示します。

2) 臨床家としての専門技能

専攻医は、整形外科研修カリキュラムに沿って研修し、整形外科専門医として必要な、運動器診療に関する幅広い基本的な専門技能を身につけます。専門技能習得の年次毎の到達目標を表4に示します。

良い医師であるために

良い医師であるためには、臨床家としての技術・経験、科学者としての知識・考え方、チームリーダーとしての指導能力・コミュニケーション能力がバランス良く求められます。東北大学整形外科研修プログラムでは、到達目標を一つずつ達成することで、**皆さんが真のプロとなる事を全力サポートします。**



表3：専門知識習得の年次目標

	行動目標あるいは達成目標	専攻医 1年目	専攻医 2年目	専攻医 3年目	専攻医 4年目
医師の法的義務と職業倫理 一般目標：医師が守るべき法律と医師に求められる倫理規範を理解し、遵守できる	1. 医師法等で定められた医師の義務を知る	●			
	2. 医療法の概略、特に療養担当規則を理解する	●			
	3. 健康保険法・薬事法を理解し、遵守できる	●			
	4. 医療倫理、医療安全の重要性を理解し実践できる	●			
	5. ヘルシンキ宣言、日本医師会の「医の職業倫理綱領」を知る	●			
	6. 患者やその家族と良好な信頼関係を確立することができる	●			
運動器の基礎知識 一般目標：運動器疾患の理解に必要な運動器の生理学および病態生理学を修得する	1. 体幹・四肢の解剖を修得する		●		
	2. 運動器の正常組織像と各種疾患での病理組織像を述べられる		●		
	3. 骨代謝の概略を述べることができる		●		
	4. 骨折の治癒過程を述べることができる		●		
	5. 軟骨代謝の概略を述べることができる			●	
	6. 軟骨修復について述べるができる			●	
	7. 神経の変性と再生について述べるができる			●	
	8. 関節症と関節炎の病態の違いを述べるができる				●
	9. 運動器のバイオメカニクスの概略を述べるができる				●
医療記録 一般目標：医療記録は開示義務に基づき必要事項が正確に記載されねばならないこと、医療記録は個人情報であり、社会的にその管理責任を果たさねばならないことを理解・修得する	1. 開示要求に耐えうる医療記録を作成し管理できる	●			
	2. 運動器疾患について正確に病歴、症状、経過が記載できる	●			
	3. 運動器疾患の身体所見が記載できる	●			
	4. 検査結果（画像、血液検査、病理等）の記載ができる	●			
	5. インフォームドコンセントの内容を記載できる	●			
	6. 手術記録を適切に作成できる。	●			
	7. 紹介状、依頼状を適切に書くことができる	●			
	8. リハビリテーション、義肢、装具の処方と記録ができる				●
	9. 障害認定と診断書の種類と内容を理解し適切に記載できる				●
研究・発表能力 一般目標：臨床的な疑問点を見出して科学的に解明し、結果を論理的にまとめる能力を修得する。	1. 経験症例から研究テーマを立案し、プロトコルを作成できる				●
	2. 研究に参考となる文献を検索し、適切に引用することができる		●		
	3. 結果を科学的・論理的にまとめ、学会と論文で報告できる			●	
	4. 研究・発表媒体には個人情報を含まないように留意できる	●			
	5. 研究・発表に用いた個人情報を厳重に管理できる	●			
	6. 適切な統計学的手法を選択し、解析できる				●

表4：経験すべき診断・治療基本手技

	行動目標あるいは達成目標	専攻医 1年目	専攻医 2年目	専攻医 3年目	専攻医 4年目
診断基本手技 一般目標：運動器疾患の正確な診断を行うための基本的手技を修得する。	1. 病歴聴取に際して患者の社会的背景や QOLに配慮できる	●			
	2. 運動器の身体所見がとれ、評価できる	●			
	3. 神経学的所見（MMT、知覚障害、反射など）がとれ、評価できる	●			
	4. 適切なX線写真の撮影部位と方向を指示し、読影できる	●			
	5. CT・MRIを造影の要否も含め適切に指示し、読影できる		●		
	6. シンチグラフィを適切な核種を選択して指示し、判定できる			●	
	7. 筋電図、神経伝導速度の適応を理解し、実施・判定できる				●
	8. 骨量測定の概要を理解し、指示・判定できる			●	
	9. 超音波エコー検査の適応を理解し、実施・判定できる				●
	10. 侵襲的検査について患者・家族に説明し、同意を得ることができる		●		
	11. 侵襲的検査の合併症を熟知し、予防的管理を適切に実施できる		●		
	12. 血液・尿生化学検査の適応を理解し、指示・判定できる		●		
	13. 関節造影、脊髄造影の適応を理解し安全に実施できる	●			
	14. 関節液検査、脳脊髄液検査の適応を理解し、実施・判定できる		●		
	15. 組織生検の適応と手技を理解し、指導責任者のもとで実施できる		●		
	16. 微生物学の基礎を理解し、細菌検査を指示・判定できる		●		
	17. 病理標本を鏡し、正常像と病的組織像の鑑別ができる				●
	18. 日整会各種機能評価判定基準を用いて評価できる		●		
治療基本手技 一般目標：運動器疾患の治療を安全に行うためにその基本的手技を修得する。	1. 薬物療法の基本と適応を理解し、適切に処方できる	●			
	2. 医薬品副作用被害救済制度を知っている	●			
	3. 麻薬管理に関する法律を理解し、適切に処方できる	●			
	4. 一般外傷を診断し、検査と治療の優先度を評価できる		●		
	5. 骨折や脱臼の徒手整復を正しく実施できる		●		
	6. ブラッシング、デブリドマンなど基本的創傷処置を正しく実施できる		●		
	7. 局所麻酔法を正しく実施できる	●			
	8. 伝達麻酔・腰椎麻酔・硬膜外麻酔を正しく実施できる		●		
	9. 全身麻酔の基礎を理解できる		●		
	10. 固定法（副子、ギブスなど）の適応を理解し、適切に実施できる		●		
	11. 牽引療法の基本と適応を理解し、適切に実施できる		●		
	12. 理学療法・作業療法の基本と適応を理解し、適切に処方できる				●
	13. 装具療法の基本と適応を理解し、装具や杖を適切に処方できる				●
	14. 清潔操作（関節穿刺・注入や直達牽引など）が実施できる	●			
	15. 神経ブロック・硬膜外ブロックを安全に実施できる			●	
	16. 術前準備(患者・患肢確認、体位、手洗い等)を適切に実施できる	●			
	17. 手術内容と合併症について説明し、同意を得ることができる		●		
	18. 術後合併症を熟知し、予防的管理を適切に実施できる		●		
	19. 局所解剖に基づいて手術の概要を述べるができる			●	
	20. 運動器の基本手術手技(鏡視下手術を含む)に習熟し、実施できる				●
	21. 骨移植の種類を理解し、その適応を判断できる			●	
	22. バイオマテリアルの種類を理解し、その使用基準を判断できる				●
	23. 手術記録を適切に作成できる	●			
	24. 術後のリハビリテーションを適切に処方できる			●	
	25. 在宅医療・社会復帰について、メディカルスタッフ等と協議できる				●

研究発表で臨床力を磨け！

3) 科学者としての素養

臨床的な疑問点を見出して解明する意欲を持ち、その解答を科学的に導き出し、論理的に正しくまとめる能力を獲得するため、以下の目標を定めています。

- i 経験症例から研究テーマを立案し、プロトコルを作成できる。
- ii 研究に参考となる文献を検索し、適切に引用することができる。
- iii 結果を学会発表ならびに論文として報告できる。
- iv 研究・発表に用いた個人情報を厳重に管理できる。
- v 適切な統計学的手法を選択し、解析できる。

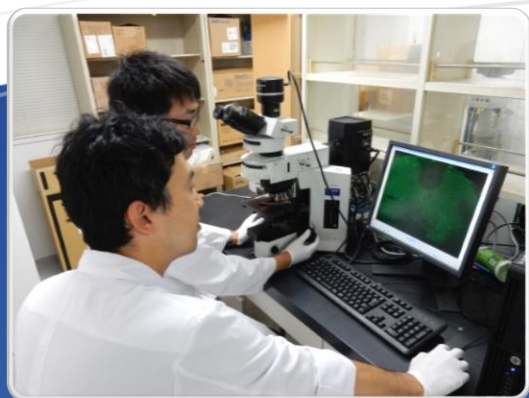
さらに、本研修プログラムでは学術活動として、下記 4 項目を定めています。

- i 東北大学整形外科談論会への参加（年 2 回以上）
- ii 同会での研究発表（3 年目までに 1 回以上）
- iii 外部学会での発表（年 1 回以上）
- iv 論文作成（研修期間中 1 編以上）



国際学会も経験！

**研修修了時には
専門医取得に必要な
論文も君のものに！**



NPO法人 とうほく整形外科

東北大学整形外科の同窓会員が中心となって作られるNPO法人とうほく整形外科からは専修医助成として、東北大学関連セミナー参加費の助成、国内、海外学会等の参加の助成、臨床調査研究に対する助成を受けることができます。

Q: なぜ研究発表・論文作成をするのか？

A: 良い臨床に間違いなくつながるため

- ・鑑別診断を考える癖がつく
→ 鑑別診断を否定できるための検査を行い、その根拠を得る
→ 誤った診断をしなくなる
- ・論理的にものを考える癖がつく
→ インフォームド・コンセントに役立つ
- ・最新の文献を調べる
→ 診断・治療がアップデートされる
- ・日常診療のモチベーションとなる
→ 飽きずに仕事ができる

プロフェッショナルの 仕事の流儀



4) チームリーダーとしての資質

i プロとしての自律性を身につける

研修医期間が終了して、専攻医となった後は、単に教わる立場ではなく一人の専門家として学び、医療を行っていく心構えが必要です。東北大学整形外科研修プログラムでは、指導医は責任をもって指導を行います。一方で任せるべき所は任せて専攻医の自律性を養います。診断・治療方針の決定に参加し、受け持ち医として直接患者・家族と接していく中で医師としてのプロ意識を身につけていきます。

ii 臨床の現場から学ぶ態度を修得する

本プログラムでは、知識を単に暗記するのではなく、「患者から学ぶ」を実践します。個々の症例に対して、診断・治療の計画を立て、診療していく中で指導医とともに考え、調べながら学ぶプログラムとなっています。各施設で毎週行われる症例検討会や術前・術後カンファレンスでは、個々の症例から幅広い知識をより深く学ぶことができます。

iii チームを意識して行動する

医療は医師のみでは成立しません。整形外科専門医として、チーム医療の必要性を理解しチームのリーダーとして活動できること、他のメディカルスタッフと協調して診療にあたることができることが求められます。

東北大学整形外科には宮城骨折治療研究会、宮城手の外科研究会、東北大学脊椎外科懇話会、宮城骨・軟部腫瘍研究会、仙台肩関節研究会、仙台膝の会、宮城県スポーツ医学懇話会など**多くの研究会があります。専攻医はこれらの研究会に参加しながら、各専門診療グループの一員として研究・学会発表等を行います。**病院の医療チーム・東北大チームの一員として活躍することで次世代を担うチームリーダーとしての資質を育成します。

iv 後輩医師に教育・指導を行う

本プログラムでは、専攻医は指導医とともに学生や後輩医師の教育・指導も担います。後輩の指導は最大の学びの機会です。教えることによって自分自身の知識の整理、指導力を身につけるだけでなく、自身のモチベーションを高めることができます。

③ 経験目標

1) 経験すべき疾患・病態

東北大学専門研修プログラムでは、日本整形外科学会が定める「**整形外科専攻医が経験すべき症例**」を網羅して**経験することが可能**です。本プログラム参加病院には都市型の中心病院である仙台医療センター、仙台市立病院、岩手県立中央病院、山形市立病院済生館、地域中核病院としての大崎市民病院、石巻赤十字病院、気仙沼市立病院、いわき市立総合磐城共立病院、大曲厚生医療センターがあります。さらに、各専門分野の最先端治療を行う高度専門領域研修病院として、東北労災病院、仙台西多賀病院、仙台整形外科病院、JCHO仙台病院、仙台赤十字病院、東北公済病院、宮城県立がんセンター、宮城県立こども病院があります。基幹施設である東北大学病院では脊椎外科、関節外科、スポーツ整形外科、腫瘍外科の十分な症例数があります。基幹施設、連携施設での切れ目ない研修により、専門研修期間中に経験すべき疾患・病態は十分に経験することが出来ます。

2) 経験すべき診察・検査等

資料1「整形外科研修カリキュラム」（下記URLからダウンロード可能）に明示した経験すべき診察・検査等の行動目標に沿って研修します。尚、年次毎の到達目標は表2に示します。診断基本手技、治療基本手技については4年間で5例以上経験します。

3) 経験すべき手術・処置等

資料1「整形外科研修カリキュラム」に明示した経験すべき手術・処置等の行動目標に沿って研修します。本プログラムでは、研修中に必要な手術・処置の修了要件を満たすのに十分な症例を経験することができます。症例を十分に経験した上で、上述したそれぞれの連携施設において、施設での特徴を生かした症例や技能を広くより専門的に学ぶことができます。

地方中核病院の醍醐味



宮城県医学生修学資金 (奨学金) 貸付事業に 対応!

上記事業では貸付期間の2倍の期間内に、知事が指定する自治体病院等で貸付期間と同じ期間を勤務した場合、返還が全額免除されます。東北大学専門研修プログラムには、知事が指定する自治体病院が多数参加しており、個人の状況を考慮したプログラムを組むことが可能です。

もちろん岩手県医学生 修学資金(奨学金) 貸 付事業にも対応!

関連病院が豊富な東北大学研修プログラムの強みとして上記奨学金制度にも対応可能です。

参照資料

整形外科専門研修プログラム付属資料（日本整形外科学会HP）
<http://www.joa.or.jp/jp/edu/files/index.html>

4. 研修方法

① 臨床現場での学習

整形外科の研修で経験すべき疾患・病態は、骨、軟骨、筋、靭帯、神経などの運動器官の疾病・外傷・加齢変性です。また新生児、小児、学童から成人、高齢者まで全ての年齢層が対象となり、その内容は多様です。この多様な疾患に対する専門技能を習得するために、整形外科専門研修は研修方略（資料6；下記URLよりダウンロード可能）に従って1ヶ月の研修を1単位とする単位制をとります。全カリキュラムを10の研修領域（脊椎、上肢・手、下肢、外傷、リウマチ、リハビリテーション、スポーツ、地域医療、小児、腫瘍）に分割し、基幹施設および連携施設をローテーションすることで、それぞれの領域で定められた修得単位数以上を修得し、4年間で48単位を修得するプログラムで研修します。

※具体的な年度毎の達成目標については、表3および表4を参照ください。
研修コースの具体例については表2を参照ください。

本プログラムの専門研修連携施設においては、専攻医を含めた医師一人あたりの手術執刀件数が年間100～200件であり、短期間で非常に豊富な執刀経験を得ることが可能です。なお執刀医として経験すべき症例については、資料3「整形外科専門研修カリキュラムに示した疾患」（A：それぞれについて最低5例以上経験すべき疾患、B：それぞれについて最低1例以上経験すべき疾患）の中のものとしします。

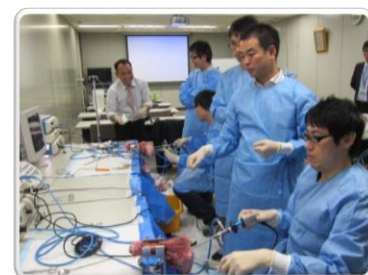
術前術後症例検討会において手術症例の報告をすることで、手技および手術の方法や注意点を深く理解し専門技能の習得を行います。指導医は上記について責任を持って指導を行います。



参照資料
整形外科専門研修プログラム付属資料（日本整形外科学会HP）
<http://www.joa.or.jp/jp/edu/files/index.html>

② 臨床現場を離れた学習

日本整形外科学会学術集会時に教育研修講演（医療安全、感染管理、医療倫理、指導・教育、評価法に関する講演を含む）に参加します。また関連学会・研究会において日本整形外科学会が認定する教育研修会、各種研修セミナーで、国内外の標準的な治療および先進的・研究的治療を学習します。特に本プログラムでは、専門研修4年目に東北大学整形外科が主催するブラッシュアップセミナーに参加することにより、多領域にわたる同門の専門家から最新知識の講義を受けることができます。



③ 自己学習

日本整形外科学会や関連学会が認定する教育講演、日本整形外科学会が作成するe-LearningやTeaching fileを活用して、より広く深く学習することができます。日本整形外科学会作成の整形外科卒後研修用DVD等を利用することにより、診断・検査・治療等について自己学習を行うこともできます。

④ 専門研修中の年度毎の知識・技能・態度の修練プロセス

整形外科専門医としての臨床能力には、専門的知識・技能だけでなく、医師としての基本的診療能力が重要です。どの領域から研修を開始するかに関わらず、指導医からの指導や専攻医評価表を用いたフィードバックによって基本的診療能力の早期獲得を目指します。



5. 専門研修の評価について

① 形成的評価

1) フィードバックの方法とシステム

専攻医は、各研修領域終了時および研修施設移動時に日本整形外科学会が作成したカリキュラム成績表（資料7；下記URLよりダウンロード可能）の自己評価欄に行動目標毎の自己評価を行います。また指導医評価表（資料8）で指導体制、研修環境に対する評価を行います。指導医は、専攻医が行動目標の自己評価を終えた後にカリキュラム成績表（資料7）の指導医評価欄に専攻医の行動目標の達成度を評価します。尚、これらの評価は日本整形外科学会が作成した整形外科専門医管理システムからwebで入力します。指導医は抄読会や勉強会、カンファレンスの際に専攻医に対して教育的なフィードバックを行います。

2) 指導医層のフィードバック法の学習(FD)

指導医は、日本整形外科学会が行う指導医講習会等を受講してフィードバック法を学習し、より良い専門医研修プログラムの作成に努めています。指導医講習会には、フィードバック法を学習するために「指導医のあり方、研修プログラムの立案（研修目標、研修方略及び研修評価の実施計画の作成）、専攻医、指導医及び研修プログラムの評価」などが組み込まれています。



② 総括的評価

1) 評価項目・基準と時期

専門専攻研修4年目の3月に研修期間中の研修目標達成度評価報告と経験症例数報告をもとに総合的評価を行い、専門的知識、専門的技能、医師としての倫理性、社会性などを習得したかどうかを判定します。

2) 評価の責任者

年次毎の評価は専門研修基幹施設や専門研修連携施設の専門研修指導医が行います。専門研修期間全体を通しての評価は、専門研修基幹施設の専門研修プログラム統括責任者が行います。

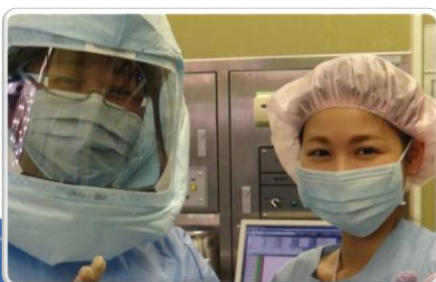
3) 修了判定のプロセス

研修基幹施設の整形外科専門研修プログラム管理委員会において、各専門研修連携施設の指導管理責任者を交えて修了判定を行います。修了認定基準は、下記5項目の全てを満たしていることです。

- i. 各修得すべき領域分野に求められている必要単位を全て満たしていること（別添の専攻医獲得単位報告書（資料9）を提出）。
- ii. 行動目標のすべての必修項目について目標を達成していること
- iii. 臨床医として十分な適性が備わっていること。
- iv. 研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続により30単位を修得していること。
- v. 1回以上の学会発表、筆頭著者として1編以上の論文があること。

4) 他職種評価

専攻医に対する評価判定に他職種（看護師、技師等）の医療従事者の意見も加えて医師としての全体的な評価を行い専攻医評価表（資料10）に記入します。専攻医評価表には指導医名以外に医療従事者代表者名を記します。



参照資料
整形外科専門研修プログラム付属資料（日本整形外科学会HP）
<http://www.joa.or.jp/jp/edu/files/index.html>

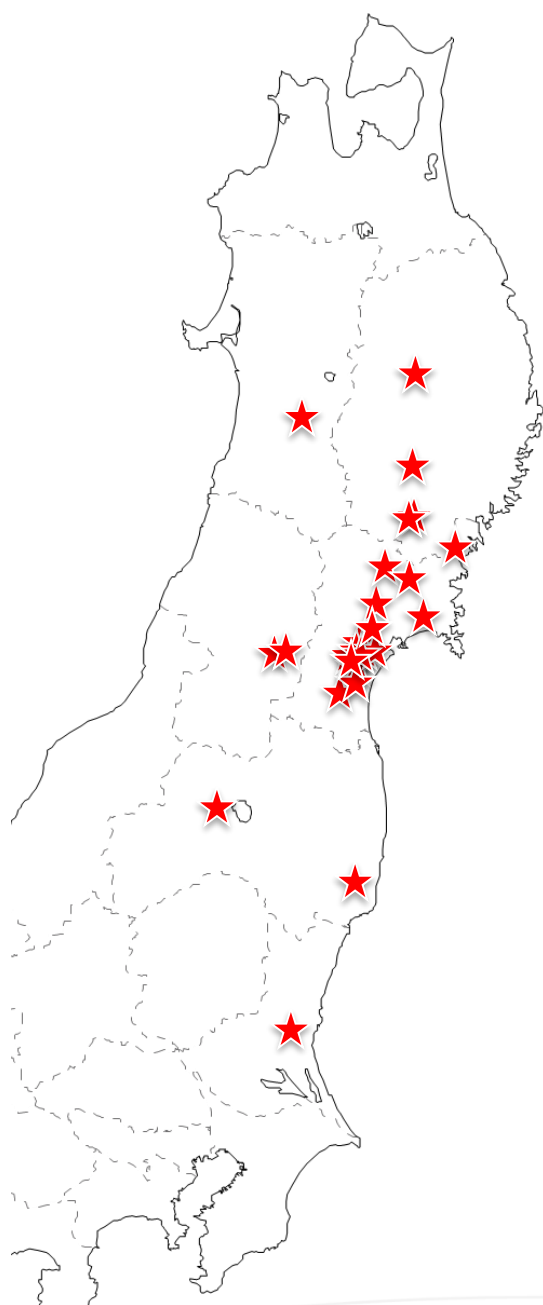
6. 研修プログラムの施設群について

専門研修基幹施設

東北大学病院整形外科が専門研修基幹施設となります。

専門研修連携施設

東北大学整形外科研修プログラムの施設群を構成する連携病院は以下の通りです。
専門研修連携施設の認定基準を満たしています。



宮城県

- ・東北労災病院
- ・仙台赤十字病院
- ・仙台医療センター
- ・仙台市立病院
- ・仙台西多賀病院
- ・仙台整形外科病院
- ・JCHO仙台病院
- ・東北公済病院
- ・松田病院
- ・宮城県立がんセンター
- ・宮城県立こども病院
- ・公立黒川病院
- ・石巻赤十字病院
- ・大崎市民病院
- ・栗原中央病院
- ・登米市民病院
- ・気仙沼市立病院
- ・みやぎ県南中核病院
- ・東北医科薬科大学病院

岩手県

- ・岩手県立中央病院
- ・岩手県立磐井病院
- ・奥州市総合水沢病院
- ・一関病院

山形県

- ・山形市立病院済生館
- ・東北中央病院

福島県

- ・竹田総合病院
- ・磐城共立病院

秋田県

- ・大曲厚生医療センター

茨城県

- ・水戸医療センター

7. 専攻医受入数

より多くの症例を経験し 確実なスキルアップを！！

専攻医受入数は、研修プログラムにおける指導医数、症例数、手術件数によって決まります（注※）。我々の基幹施設である東北大学病院整形外科と連携施設全体での**指導医数は74名、年間新患数76000名以上、年間手術件数およそ17000件と十分な指導医数・症例数を有します。**質・量ともに十分な指導を行うために各年11名、4年分で計44名を受入数とします。それぞれの専攻医がより多くの症例数を経験でき、手術執刀件数も非常に多いため、整形外科医として確実なスキルアップがはかれます。近年、医師数が過剰ともいわれる首都圏などの大都市では得られない充実した研修も可能です。

注※各専攻医指導施設における専攻医総数の上限（4学年分）は、当該年度の指導医数×3となっています。また、各専門研修プログラムにおける専攻医受け入れ可能人数は、専門研修基幹施設および連携施設の受け入れ可能人数を合算したものです。さらに専攻医数の上限は、これらのプログラム参加施設の合計の症例数でも規定されます。プログラム全体での症例の合計数は、（年間新患数が500例、年間手術症例を40例）×専攻医数とされています。



充実した指導のもとに
より多く執刀件数を経験

8. 地域医療・地域連携への対応

整形外科専門医制度は地域医療を大切にしています。本研修プログラムでは地域医療研修病院で外来診療や二次救急などに従事し、主に一般整形外科疾患・外傷の診断・治療に関する研修を行います。さらに周囲医療機関との病診連携も経験・習得します。我々の研修プログラムでは、研修基幹施設である東北大学病院以外に、長年にわたり人事交流がある他県の地域医療研修病院にも勤務することによりこれを行います。他県における地域の整形外科診療や病病連携、病診連携を経験することを目的に、他県での研修を行います。東北大学整形外科の関連施設には各地域の中核病院が多数含まれ、地域医療に重要な役割を担ってきました。これまで若手医師の研修でも人気の高い実績のある病院が沢山あり、充実した地域医療研修ができます。



地域医療研修中も東北大学主催の研修セミナーに参加し、ハイレベルな知識を各専門分野講師から学べます。

指導医の質を保つため、地域医療研修病院の指導医には本学が主催する研修セミナーや各種学会に参加して多領域における最新知識を得るとともに、専攻医への学会発表や論文作成の指導を必須としています。また自らが指導した専攻医の評価報告を行うとともに、専攻医から研修プログラム管理委員会に提出された指導医評価表に基づいたフィードバックを受けます。

9. サブスペシャリティ領域との連続性について

各専門分野のエキスパート による専門的な指導

- ・ 様々な分野のセミナー・学会への参加
- ・ 専門医との情報共有と人的交流



東北大学整形外科研修プログラムでは各指導医が脊椎・脊髄外科、関節外科、スポーツ整形外科、外傷、手外科等のサブスペシャリティを有しています。専攻医が興味を有し将来指向する各サブスペシャリティ領域については、指導医のサポートのもと、より深い研修を受けることができます。また専攻医によるサブスペシャリティ領域の症例経験や学会参加が強く推奨されています。

これまでも学会参加や論文発表などの多くの実績があります。また、本学および関連施設が毎年行っている各種の整形外科研修セミナー（東北大学脊椎外科セミナー、東北大学小児整形外科セミナー、東北大学リウマチ外科セミナー、東北大学手の外科セミナー、仙腸関節セミナー、宮城足部疾患・外傷セミナーなど）は、サブスペシャリティ領域への橋渡しとなっています。また近年は献体遺体を用いた研修が可能な、東北大学整形外科手術手技研修会も毎年開催されており、最新の手術手技を学ぶことが可能です。また各サブスペシャリティの専門分野ごとに定期的に勉強会が行われており、若手医師の参加や発表を通じて、専門医師との密度の高い情報共有や人的交流も可能です。

10. 研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件

傷病、妊娠、出産、育児、その他やむを得ない理由がある場合の休止期間は合計6カ月間以内とします。限度を超えたときは、原則として少なくとも不足期間分を追加履修することになります。疾病の場合は診断書の、妊娠・出産の場合はそれを証明するものの添付が必要です。留学、診療実績のない大学院の期間は研修期間に組み入れることはできません。また研修の休止期間が6カ月を超えた場合には、専門医取得のための専門医試験受験が1年間遅れる場合もあります。専門研修プログラムの移動に際しては、移動前・後のプログラム統括責任者及び整形外科領域の研修委員会の同意が必要です。

1 1. 専門研修プログラムを支える体制

① 専門研修プログラムの管理運営体制

基幹施設である東北大学病院においては、指導管理責任者（プログラム統括責任者を兼務）および指導医の協力により、また専門研修連携施設においては指導管理責任者および指導医の協力により専攻医の評価体制を整備します。専門研修プログラムの管理には添付した日本整形外科学会が作成した指導医評価表や専攻医評価表などを用いた双方向の評価システムにより、互いにフィードバックすることから研修プログラムの改善を行います。

上記目的達成のために専門研修基幹施設に専門研修プログラムと専攻医を統括的に管理する整形外科専門研修プログラム管理委員会を置き、年に一度開催します。



研修への様々なバックアップ体制

- ・人材の供給、確保
- ・情報の提供、共有
- ・経済的な支援
- ・安全な環境、ゆとり
- ・社会的条件へ配慮

② 労働環境、勤務条件

労働環境、勤務条件は専門研修施設の病院規定によります。

1) 研修施設の責任者は専攻医のために適切な労働環境の整備に努めます。2) 研修施設の責任者は専攻医の心身の健康維持に配慮します。3) 過剰な時間外勤務を命じないようにします。4) 施設の給与体系を明示し、4年間の研修で専攻医間に大きな差が出ないように配慮します。

専攻医の勤務時間、休日、当直、給与などの勤務条件については、労働基準法を遵守し、各施設の労使協定に従います。さらに、専攻医の心身の健康維持への配慮、当直業務と夜間診療業務の区別とそれぞれに対応した適切な対価を支払うこと、バックアップ体制、適切な休養などについて、勤務開始時あるいは事前に説明を行います。

総括的評価を行う際、専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い、その内容は東北大学病院整形外科専門研修管理委員会に報告されますが、そこには労働時間、当直回数、給与など、労働条件についての内容が含まれます。

12. 専門研修実績記録システム、マニュアル等について

① 専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価

日本整形外科学会が作成した整形外科専門医管理システムを用いて整形外科専門研修カリキュラムの自己評価と指導医評価、及び症例登録をweb入力で行います。日本整形外科学会非会員は、紙評価表を用います。



② 医師としての適正の評価の方法

指導医は資料3研修カリキュラムの「医師の法的義務と職業倫理」の項で医師としての適性を併せて指導し、整形外科専門医管理システムにある専攻医評価表（資料10）を用いて入院患者・家族とのコミュニケーション、医療職スタッフとのコミュニケーション、全般的倫理観、責任感を評価します。



③ プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備

日本整形外科学会が作成した①整形外科専攻医研修マニュアル、②整形外科指導医マニュアル、③専攻医取得単位報告書、④専攻医評価表、⑤指導医評価表、⑥カリキュラム成績表を用います。③、④、⑤、⑥は整形外科専門医管理システムを用いてweb入力することが可能です。日本整形外科学会非会員の場合、紙評価表、報告書を用います。①、②は日本整形外科学会ホームページ参照。

13. 専門研修プログラムの評価と改善

① 専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価

日本整形外科学会が作成した指導医評価表を用いて、各ローテーション終了時（指導医交代時）毎に専攻医による指導医や研修プログラムの評価を行うことにより研修プログラムの改善を継続的に行います。専攻医が指導医や研修プログラムに対する評価を行うことで不利益を被ることがないように保証します。



② 専攻医等からの評価（フィードバック）をシステム改善につなげるプロセス

専攻医は、各ローテーション修了時に、指導医や研修プログラムの評価を行います。その評価は研修プログラム統括責任者が報告内容を匿名化して研修プログラム管理委員会に提出、研修プログラム管理委員会では研修プログラムの改善に生かすようにするとともに指導医の教育能力の向上を支援します。

③ 研修に対する監査（サイトビジット等）・調査への対応

研修プログラムに対する日本専門医機構など外部からの監査・調査に対して研修プログラム統括責任者および研修連携施設の指導管理責任者ならびに専門研修指導医及び専攻医は真摯に対応、プログラムの改良を行います。専門研修プログラム更新の際には、サイトビジットによる評価の結果と改良の方策について日本専門医機構の整形外科研修委員会に報告します。

14. 専攻医の採用と修了

① 採用方法

1) 応募資格

初期臨床研修修了見込みの者であること。

2) 採用方法

基幹施設である東北大学病院整形外科に置かれた整形外科専門研修プログラム管理委員会が、整形外科専門研修プログラムをホームページや印刷物により毎年公表します。毎年7月頃より説明会などを複数回行い、整形外科専攻医を募集します。

翌年度のプログラムへの応募者は、前年度の指定された日時までに、研修プログラム責任者宛に所定の形式の『東北大学整形外科専門研修プログラム応募申請書』および履歴書、医師免許証写し、初期研修修了証明書又は修了見込証明書を提出します。

申請書は東北大学整形外科の①website(<http://www.ortho.med.tohoku.ac.jp/>)よりダウンロード、②医局に電話で問い合わせ(022-717-7245)、③医局にe-mailで問い合わせ(secretary@ortho.med.tohoku.ac.jp)、のいずれの方法でも入手可能です。原則として10月中に書類選考および面接を行い、採否を決定して本人に文書で通知します。応募者および選考結果については12月の東北大学病院整形外科専門研修プログラム管理委員会において報告します。

② 修了要件

- 1) 各修得すべき領域分野に求められている必要単位を全て満たしていること。
- 2) 行動目標のすべての必修項目について目標を達成していること。
- 3) 臨床医として十分な適性が備わっていること。
- 4) 研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続により30単位を修得していること。
- 5) 1回以上の学会発表を行い、また筆頭著者として1編以上の論文があること。

以上1)～5)の修了認定基準をもとに、専攻研修4年目の3月に、研修基幹施設の整形外科専門研修プログラム管理委員会において、各専門研修連携施設の指導管理責任者を交えて修了判定を行います。

15. 連携病院紹介

大曲厚生医療センター

所在地 秋田県大仙市大曲通町8-65

病院の特徴：大曲厚生医療センターはJR大曲駅（新幹線こまちの停車駅）から徒歩3分と非常にアクセスの良い位置にあります。病院の屋上にヘリポートがあり、四肢、脊椎のすべての外傷を受け入れています。また、脊椎、膝関節、股関節などの慢性疾患にも力を入れています。外傷チーム、関節チーム、脊椎チームと3つのチームに分けてチーム医療を行っています。

おすすめの研修時期：1年目、2年目、3年目にお勧めします。外傷、脊椎、関節と幅広い分野を修得できます。



岩手県立中央病院

所在地 岩手県盛岡市上田1丁目4-1



病院の特徴：当院は、病床685床の県営医療の中核病院です。整形外科新患の約40%を占める外傷疾患はスタッフ全員で治療を行い、その上で各自の subspecialty を考えるという方針で診療を行っています。Subspecialtyは脊椎・膝関節・肩関節を主に扱い、THAなど股関節の手術も行っています。手術は標準的な術式のほか、内視鏡や一部マイクロを使用したMISも積極的に取り組んでいます。また盛岡は、焼肉や冷麺なども美味でオススメです。

奥州市総合水沢病院

所在地 岩手県奥州市水沢区大手町3-1

病院の特徴：整形外科医が足りない地域のため毎日多くの患者が訪れ、常勤医師4人で平日毎日午前外来（1人病棟回診）、午後手術を行っています。患者は多いですがコメディカルがとても協力的なおかげで診療行為に集中して取り組みます。外傷も関節も脊椎も、何でもやります。脊椎内視鏡手術（MED, MEL, CMEL）、両膝人工関節（UKA×2、TKA+UKA）は東北でもトップクラスの数です。研修医も常勤医師としての待遇で、雑用などは一切ありません。夜間休日の急患は少なく、研修医のQOLはいい病院です。

おすすめの研修時期：何年目でも指導医サポートのもとで多くの手術を執刀してもらいます。手術経験を積みたいやる気ある先生、お待ちしております。

東北中央病院

所在地 山形県山形市和合町3丁目2-5

病院の特徴：当院には6名の整形外科医師が揃っており、特に脊椎疾患の治療に対し高い評価を得ています。脊椎（頸椎～腰部）の手術件数は年間600例を超え東北地方トップクラスの実績を有しています。丁寧な診察に基づき、手術又は保存療法の適否を慎重に判断しており、他医からの紹介も多く、全国各地から多くの患者さんに来院していただいています。職員一同、病院理念「心温かい 信頼の医療」の提供を心掛けています。

おすすめの研修時期：期間を問わず充実した研修が可能です。



気仙沼市立病院

所在地 宮城県気仙沼市田中184番地



建築中！

病院の特徴：宮城県北部と岩手県南部の沿岸地域が診療圏です。復興事業に伴う労働災害、高齢者の骨折など四肢外傷が中心ですが地域完結の医療を目指して人工膝関節、人工股関節、肩膝の関節鏡視下手術も行っています。診療に超音波エコーを取り入れ、四肢骨折の大半はエコー下ブロックを用いた自家麻酔で行います。スポーツ障害に興味を持つ医師が多数おり地域のスポーツ検診にも参加しています。平成29年11月には新病院が開院します。

おすすめの研修時期：1-4年目。

登米市民病院

所在地 宮城県登米市迫町佐沼字下田中25

病院の特徴：仙台から車で約90分。のどかな田園風景を過ぎると、当院が見えてきます。整形外科のベッド数は約30床で、手術件数は外傷中心に年間およそ300件で推移しています。高齢者の外傷が多いことが当院の特徴として挙げられます。一部の変性疾患や特殊な手術に関しては、専門医を呼んで手術を見せてもらうこともあります。

おすすめの研修時期：2年目あたり。基本がおさえられるようになったら、どんどん経験を積んで技術を向上させましょう。

栗原中央病院

所在地 宮城県栗原市築館宮野中央3-1-1

病院の特徴：当院は宮城県最北にある2次救急病院です。扱っている疾患は高齢者の大腿骨近位部骨折を中心とした外傷と肩・股・膝関節などの変性疾患です。大病院で扱うような多発外傷や最先端の医療はできませんが、回復期・療養病棟が併設されているので、術後リハビリを同一施設内で長くできるメリットがあり、急性期の治療から慢性期に移行してからの治療・退院調整に至るまでの流れを一箇所の施設で経験できます。大病院での研修を終えてちょっとひと息つきたい時に短期間だけでも来られてみてはいかがでしょうか？

おすすめの研修時期：3年目。4年目あたり。大病院での研修を終えてちょっとひと息つきたい時期。整形外科領域での地域医療をより深く経験してみたい方。

大崎市民病院

所在地 宮城県大崎市古川穂波3丁目8-1

病院の特徴：大崎市民病院は宮城県北の基幹病院です。救急センターを併設していますので、2次、3次救急患者が運ばれてきます。整形外科では脊椎や関節の変性疾患手術も行っておりますが、外傷手術が2/3を占めております。急性期のICU管理は救急専門医の指導のもとに行います。救急外傷に興味のある方を待っています。

おすすめの研修時期：3 - 6年目。どの年代の方が来ても仕事はあります。病院のシステムに慣れる期間が必要ですので2年間程度の研修が良いでしょう。



公立黒川病院

所在地 宮城県黒川郡大和町吉岡字西桜木60

病院の特徴：公立黒川病院整形外科は、外傷や変性疾患の手術を行っており黒川医療圏の地域医療を担っています。地域医療の他、肩関節疾患や関節リウマチの専門的な研修も可能です。また、リハビリ部門はスタッフ、症例ともに非常に充実しており、基幹病院では経験困難な患者さんの術後の家庭復帰までの経過をみるすることができます。

おすすめの研修時期：2 - 4年目あたり。数カ月単位での研修も可能です。仙台市内から通勤できます。（大学病院より車で約30-40分）。



石巻赤十字病院

所在地 宮城県石巻市蛇田字西道下71番地

病院の特徴：石巻地区20万人の医療圏を擁し、乳児から高齢者まで、外傷から変性疾患まで幅広く診療をおこなっています。実際に「自分の手を動かして」治療をしたい方にはうってつけの施設です。主治医として外来～手術～術後の経過観察と一貫して治療に携わることができます。日本整形外科学会の認定指導医が2名います。

おすすめの研修時期：専攻医1～3年目。どのレベルでも対応可能です。



仙台整形外科病院

所在地 宮城県仙台市若林区伊在字東通24

病院の特徴：仙台整形外科病院では脊椎と膝関節の手術療法に積極的に取り組んでおり、それぞれ年間約350件、200件と県内でもトップクラスです。脊椎手術では、内視鏡手術、椎体骨折に対する椎体形成術を積極的に行っています。膝関節手術では靭帯損傷再建術、人工関節置換術などを中心に行っております。

おすすめの研修時期：整形外科の中でも、脊椎、膝関節のSub-specialityを持ちたい方に最適の研修施設です。



JCHO仙台病院

所在地 宮城県仙台市青葉区堤町3丁目16-1

病院の特徴：当院の整形外科は5名体制で診療をしており、腰椎疾患、頸椎疾患を中心に年間200以上の脊椎外科手術を行っております。また手の外科、足の外科の症例も多く、年間100例近くの手根管開放術や、250件近くの骨折の手術を行っております。平成22年に国内唯一の腰痛・仙腸関節センターが開設され、全国から来院される仙腸関節由来の腰痛患者さんを集中的に治療しています。PT11名、OT2名のスタッフで多疾患のリハビリを行っています。

おすすめの研修時期：3年目、4年目あたり。



東北労災病院

所在地 宮城県仙台市青葉区台原4-3-21

病院の特徴：東北労災病院整形外科では、11名の整形外科医が勤務しており、9名が整形外科専門医・指導医です。肘・手・末梢神経・リハビリ班、関節外科（股・膝・肩）・リウマチ・外傷班、肩・肘・膝・スポーツ整形外科班、脊椎脊髄外科班と、4つの診療班に分けています。年間手術件数は約2000件、入院病床は120床、月平均外来患者数は約3600名、月平均新患数は約400名です。各診療班に順番に配属され、多数の手術・診療経験を積むことができます。

おすすめの研修時期：3年目から6年目までいずれの時期においても有効な研修が期待できますが、3、4、5年目がよいかと思われます。6年目には大学院入学の機会もあることでしょう。

仙台医療センター

所在地 宮城県仙台市宮城野区宮城野2丁目8-8

病院の特徴：仙台医療センターは、東北大学病院、仙台市立病院とともに救命救急センターを有する病院です。宮城県ドクヘリの基地があります。四肢の単独骨折はもちろん四肢重症開放骨折や骨盤骨折、脊椎外傷の治療に積極的に取り組んでいます。外傷だけでなく、仙台市内の他の医療機関で治療が困難な重症内科疾患合併の変性疾患症例、精神科疾患合併外傷症例の治療を行っています。脊椎外科は外傷のみならず、脊椎すべり症などに対するインストゥルメンテーション固定、脊柱管狭窄症や椎間板ヘルニアに対する内視鏡手術を行っています。がん拠点病院なので、骨転移・脊椎転移患者さんの治療も行います。

東北公済病院

所在地 仙台市青葉区国分町2丁目3-11



病院の特徴：骨・軟部腫瘍、成人足部疾患、プロスポーツレベルのスポーツ障害・外傷、関節リウマチ、肩疾患の外科治療を中心に行っております。脂肪肉腫などの軟部腫瘍、外反母趾などの足部変形の治療数は全国で屈指の数を誇っております。大腿骨頸部骨折などの外傷治療にも力を入れています。新棟も開設し快適な職場環境で仕事ができます。

おすすめの研修時期：研修時期は問いません。経験年数、希望に応じた柔軟な研修を提供できます。是非選択頂ければ幸いです。

仙台赤十字病院

所在地 宮城県台市太白区八木山本町2-43-3

病院の特徴：科で担当する分野は部位別では股・膝・足・足部・肩の関節外科、さらに小児整形外科で、保存療法から最先端の手術治療まで実践しています。また骨代謝外来を通じて地域医療構築も担っています。6人の指導医は指導経験が豊富で、基本事項から研究、留学、将来の科長心得も学べます。各々の個性を尊重し、自由な雰囲気のある生活は、将来に有意義なものとなるでしょう。

おすすめの研修時期：2年目、3年目あたり。4年めで大学院入学と合わせることも可能です。



仙台市立病院

所在地 宮城県仙台市太白区あすと長町1-1-1

病院の特徴：仙台市立病院整形外科は、仙台圏の3次救急を担っており、救急車で搬送される多発外傷や合併症を抱えた外傷を主に診ています。また、他の医療機関から紹介される外傷や小児の外傷も数多く手がけています。さらに、感染症、肩関節疾患、股関節疾患、手の外傷などを手がけており、外傷の初期治療を中心に多彩な整形外科疾患を経験することができます。救急の初期対応から合併症のマネジメントなど全身状態の管理や他科との連携も研修できます。

おすすめの研修時期：整形外科入門から仕上げまでどの時期でも大丈夫です。6人の指導医が研修をサポートします。

仙台西多賀病院

所在地 宮城県仙台市太白区鉤取本町2-11-11

病院の特徴：当院整形外科の手術件数は約700件、脊椎疾患が600件を超えます。関節疾患は関節リウマチ、変形性関節症の手術が主です。脊椎では頸椎・腰椎の変性疾患が多く顕微鏡や内視鏡を用いた低侵襲手術を取り入れています。上位頸椎疾患や脊柱側弯症など専門性の高い疾患、高度不安定性例や再手術例など難易度の高い手術も行っています。ナビゲーションなどの高度医療機器も備えています。多くの症例を診断から手術および術後リハビリまで治療の流れを一貫して経験することができます。

おすすめの研修時期：外傷の経験を積んだ研修後期4年目あたり。変性疾患に対する診断、手術計画から執刀まで行うことで専門医取得に向けた知識と技術が習得可能。

宮城県立こども病院

所在地 宮城県仙台市青葉区落合4丁目3-17

病院の特徴：宮城県立こども病院は100%小児だけを扱います。股関節脱臼・内反足・斜頸が基本になりますが、小児の運動発達と麻痺の診療、四肢の変形矯正・骨延長・ボトックスなども日常的な業務です。当院でしか診られない疾患・治療・知識をぜひ学びに来てください。こども好きな先生にはとくにお褒めです。

おすすめの研修時期：専門医に必要な小児整形外科の研修単位は2か月間ですが、当院ではその間も雇用します。研修病院の変わる合間に組み込んでご利用ください。



宮城県立がんセンター

所在地 宮城県名取市愛島塩手字野田山47-1

病院の特徴：骨軟部腫瘍専門医以外の整形外科医が経験する良性骨軟部腫瘍は年に数例から十数例程度と思われるが、原発性の悪性骨軟部腫瘍を経験することは非常に少なく、一生の間に数例と思われる。日常診療に忙殺される中で、ごく稀にしか遭遇しないが、生命にかかわる肉腫を見逃さずに的確に診療できることは整形外科医にとって重要である。当院はがん専門病院であり、原発性の悪性骨軟部腫瘍の実際の治療体系を経験することができる。また、悪性骨腫瘍の中で最も症例数が多く、一般病院でも診療を行う機会がある転移性骨腫瘍患者については、原発巣担当科、放射線治療科、緩和医療科等と連携を図りながら実施しているがん専門病院としての総合医療を経験できる。

みやぎ県南中核病院

所在地 宮城県柴田郡大河原町字西38-1

病院の特徴：当院は宮城県県南唯一の外傷救急センターを謳っており、整形外科の中で、最も基本となる外傷外科学の研修が可能です。その他、当科には、日本脊椎脊髄病学会認定指導医・日本リウマチ学会認定専門医が常勤しており、頸椎・腰椎手術を中心とする脊椎外科学の修練が基礎からできることは勿論、日本リウマチ学会認定研修施設に指定され、関節リウマチの生物学的製剤などの薬物療法から、四肢人工関節手術まで、関節外科学の習得にも十分配慮されており、当科の研修により整形外科医として高齢化社会のニーズに的確に応えられる底力を養うことが出来ます。

おすすめの研修時期：東北大学整形外科教室研修システム内で3年目以降の研修が可能となっています。

竹田総合病院

所在地 福島県会津若松市山鹿町3-27

病院の特徴：竹田総合病院整形外科では、脊椎外科、手の外科、関節外科（肩関節・肘関節・股関節・膝関節・足関節）、骨粗鬆症の専門医がそれぞれチームを編成し、外傷はもちろんのこと、その他様々な変性疾患に対して高度な治療を行っております。

おすすめの研修時期：当科は東北地区でも有数の手術件数を誇り、経験すべき症例は非常に豊富であり、研修の進捗状況に応じて、個人の興味のある分野を中心に研修を行うことも可能です。



総合磐城共立病院

所在地 福島県いわき市内郷御厩町久世原16

病院の特徴：当科の特徴は、手術症例の豊富さ（平成27年度の手術件数は1700例以上でした）と、手術内容が、各関節の関節鏡による手術、人工関節手術（股、膝、肩関節）、マイクロサージャリー、脊椎手術が行われていると同時に、地域の三次救急を担うべく四肢脊椎外傷の緊急手術が行われているところです。日常生活の質を大きく改善する人工関節手術は質、量とも全国的にトップレベルにあり、特に肩の人工関節は最先端の治療が始まりました。四肢脊椎外傷による緊急手術では院内の救急救命科をはじめ複数の科がスムーズに連携しており、ほとんどの多発外傷を院内で治療しています。意欲のある若い医師には、どの時期でも有意義な研修が経験できるものと自負しております。

東北大学整形外科専門研修プログラム
2018版
初版 2018年7月22日



東北大学整形外科学教室

